# 『阿部青鞋俳句全集』読書会

2021 年 4 月 11 日 (日) zoom にて開催 榊原紘/衿草遠馬

**阿部青鞋** (1914年11月7日 - 1989年2月5日)

俳人。本名は麓芷。別号羽音。

現在の東京都渋谷区に生まれる。新興俳句系の「句帖」、渡辺白泉らの同人誌「風」に参加。「螺旋」「動線」を創刊。1957 年「花実」参加。1958 年「俳句評論」参加。1959 年受洗。1963 年「瓶」 (のち「壜」) 創刊。「八幡船」参加。1969 年永田耕衣の初期句集『真風』を編集発行。1974 年「対流」参加。1983 年第 30 回現代俳句協会賞受賞。

代表的な句に「かたつむり踏まれしのちは天の如し」「永遠はコンクリートを混ぜる音か」など。 比喩に飛躍のあるユニークな句を多数作っている。(Wikipedia より)

# 〈年表〉

参考:現代俳句協会『昭和俳句作品年表』、村山古郷『大正俳壇史』、『昭和俳壇史』、『阿部青鞋俳句全集』

年号	青鞋	社会・生活・文化	俳句
1914年	誕生	第一次世界大戦勃発/宝塚少	新傾向について乙字と碧
(大正 3		女歌劇 (現在の宝塚歌劇団) 第	梧桐の隔たりが鮮明にな
年)		1回公演。東京駅開業	る。井泉水の独自路線
1918年	お寺の養子になる		
(大正 7			
年)			

1927年(昭和2年): 金融恐慌

芥川龍之介の自殺(飯田蛇笏〈芥川龍之介氏の長逝を深悼す〉「たましひのたとへば秋のほたるかな」)

栗林一石路ら、プロレタリア俳句を発表し始める。秋櫻子の「連作」

1928年(昭和3年): 共産党「赤旗」創刊。初めての普通選挙。「破魔弓」から「馬酔木」に改題。4S誕生。虚子の「花鳥諷詠」

1929年(昭和4年):世界恐慌始まる。小林多喜二「蟹工船」。芝不器男夭逝。秋櫻子『葛飾』 (虚子「たったあれだけのものかと思いました」)

1930年(昭和5年):ロンドン海軍軍縮条約。エロ・グロ・ナンセンスの流行。波郷、五十崎 古郷と出会う。ABC(秋元不死男)の「プロレタリア俳句の理解」

1931年(昭和6年):満州事変。秋櫻子のホトトギス離脱(→虚子の小説「厭な顔」)

1932年(昭和7年):満州国建国宣言。五・一五事件。新興俳句運動起こる。ルビ俳句

田和 8 を目指し、渡仏を企てる が、叔父の急逝で断念	1933年	19 歳。学園卒業。画家	ヒトラーがドイツ首相に	新興俳句、全国に伝播
1934年(昭和9年): 日野草城「ミヤコ・ホテル」。西東三鬼ら「新俳話会」。無季俳句容認論 1936年 22歳。句誌『句帳』に参 ロンドン軍縮会議脱退を通 無季新興俳句の成熟 (昭和 加 告。ニ・二六事件 (11年)	(昭和 8	を目指し、渡仏を企てる	日本、国際連盟を脱退	
1936年	年)	が、叔父の急逝で断念		
( 昭 和 加 告。ニ・二六事件 ベルリン・オリンピック 1937 年 句誌『風』に参加。内田 文化勲章制定。日中戦争勃発 戦争俳句が盛んに作られる。碧梧桐死去(虚子「たを提唱。 『螺旋』、『動線』発行 2年)を提唱。 『螺旋』、『動線』発行 如くなり」) 1939 年(昭和 14 年):第二次世界大戦勃発。国内でヤミ取引横行。中村草田男・加藤楸邨・石田波郷らが「人間探究派」と呼ばれるように 1940 年 住谷栄子と結婚 「ぜいたくは敵だ」 第一次~第三次「京大俳(昭 和 虚視・でき、変しの表彰 句」弾圧事件 思想統制激化 1941 年 『現代名俳句集』刊。 「中本軍がハワイ真珠湾を攻 四誌(「広場」「土上」「俳繁、太平洋戦争勃発 句生活」「日本俳句」からを握事情悪化 13 名)一斉俳句弾圧事件 1942 年 渡辺白泉・三橋敏雄らと 東京初空襲 理戦俳句 「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」 サイバン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 19 年) 東海地方に大地震 東海地方に大地震 東海地方に大地震 東海地方に大地震 東海地方に大地震 東海地方に大地震 東京大空襲 関山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	1934年(日	昭和9年):日野草城「ミ	ヤコ・ホテル」。西東三鬼ら「新	俳話会」。無季俳句容認論
11年	1936年	22歳。句誌『句帳』に参	ロンドン軍縮会議脱退を通	無季新興俳句の成熟
1937 年	(昭和	加	告。二・二六事件	
( 昭 和 暮情とメカニスム俳句 を提唱。	11年)		ベルリン・オリンピック	
12年  を提唱。	1937 年	句誌『風』に参加。内田	文化勲章制定。日中戦争勃発	戦争俳句が盛んに作られ
『螺旋』、『動線』発行   如くなり」)   1939 年(昭和 14 年):第二次世界大戦勃発。国内でヤミ取引横行。 中村草田男・加藤楸邨・石田波郷らが「人間探究派」と呼ばれるように   1940 年 住谷栄子と結婚 「ぜいたくは敵だ」 第一次~第三次「京大俳 句」弾圧事件 思想統制激化   1941 年 『現代名俳句集』刊。 日本軍がハワイ真珠湾を攻 四誌(「広場」「土上」「俳 (昭 和 応召。戦病で召集解除 撃、太平洋戦争勃発 句生活」「日本俳句」から 食糧事情悪化 13 名)一斉俳句弾圧事件 1942 年 渡辺白泉・三橋敏雄らと 東京初空襲 聖戦俳句 「結婚十訓」、「欲しがりませ ん勝つまでは」	(昭和	暮情とメカニスム俳句	軍歌発表、愛国行進曲制定	る。碧梧桐死去(虚子「た
1939 年(昭和 14 年):第二次世界大戦勃発。国内でヤミ取引横行。 中村草田男・加藤楸邨・石田波郷らが「人間探究派」と呼ばれるように 1940 年 住谷栄子と結婚 「ぜいたくは敵だ」 第一次~第三次「京大俳 (昭 和 15年) 思想統制激化 1941 年 『現代名俳句集』刊。 日本軍がハワイ真珠湾を攻 四誌(「広場」「土上」「俳 (昭 和 応召。戦病で召集解除 撃、太平洋戦争勃発 句生活」「日本俳句」から 16年) 食糧事情悪化 13 名)一斉俳句弾圧事件 1942 年 渡辺白泉・三橋敏雄らと 東京初空襲 聖戦俳句 「結婚十訓」、「欲しがりませ ん勝つまでは」 サイバン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 17年) ん勝つまでは」 サイバン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 相次ぐ 東海地方に大地震 1945 年 岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊 戦争終結後、復刊が相次	12年)	を提唱。		とふれば独楽のはじける
中村草田男・加藤楸邨・石田波郷らが「人間探究派」と呼ばれるように         1940年 (昭和 15年)       住谷栄子と結婚 (慶良多子家庭の表彰 (明和 1941年 (昭和 に召。戦病で召集解除 (昭和 に召。戦病で召集解除 (昭和 1942年 (昭和 1942年 (昭和 17年)       日本軍がハワイ真珠湾を攻 (報事情悪化 (財力)から (大田) (財力)を (大田) (財力)を (大田) (大田) (大田) (大田) (大田) (大田) (大田) (大田)		『螺旋』、『動線』発行		如くなり」)
1940年 (昭和 15年)       住谷栄子と結婚 (昭和 15年)       「ぜいたくは敵だ」 優良多子家庭の表彰 (現土)」 (財産事件 思想統制激化       第一次~第三次「京大俳 切」弾圧事件 思想統制激化         1941年 (昭和 (昭和 (昭和 1942年 渡辺白泉・三橋敏雄らと (昭和 古俳諧の研究に没頭 (昭和 17年)       日本軍がハワイ真珠湾を攻 食糧事情悪化 東京初空襲 「結婚十訓」、「欲しがりませ 人勝つまでは」       四誌(「広場」「土上」「俳 句生活」「日本俳句」から 食糧事情悪化 東京初空襲 「結婚十訓」、「欲しがりませ 人勝つまでは」         17年)       人勝つまでは」         1944年 (昭和 にまとめる 日29による東京爆撃 (昭和 にまとめる 日29による東京爆撃 (昭和 にまとめる 日29による東京爆撃 (昭和 にまとめる 日29による東京爆撃 (昭和 年20後美作に33年間在 東京大空襲       俳句雑誌の統廃合が 相次ぐ 東海地方に大地震         1945年 (昭和 その後美作に33年間在 東京大空襲       残存俳句雑誌もほぼ休刊 戦争終結後、復刊が相次	1939 年(昭和 14 年):第二次世界大戦勃発。国内でヤミ取引横行。			
( 昭 和 15年)	中村草田男	弓・加藤楸邨・石田波郷ら	が「人間探究派」と呼ばれるよ	うに
15年)       思想統制激化         1941年       『現代名俳句集』刊。       日本軍がハワイ真珠湾を攻       四誌(「広場」「土上」「俳句生活」「日本俳句」から句生活」「日本俳句」から句生活」「日本俳句」から句を指数では、         16年)       食糧事情悪化       13名)一斉俳句弾圧事件         1942年       渡辺白泉・三橋敏雄らと東京初空襲       聖戦俳句         (昭和 古俳諧の研究に没頭 「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」       人勝つまでは」         1944年       その成果を『尺春庵集』サイバン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が相次でいる。       俳句雑誌の統廃合が相次である。         (昭和 にまとめる B29による東京爆撃東地方に大地震       相次で、東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊戦争終結後、復刊が相次	1940年	住谷栄子と結婚	「ぜいたくは敵だ」	第一次~第三次「京大俳
1941年       『現代名俳句集』刊。       日本軍がハワイ真珠湾を攻       四誌(「広場」「土上」「俳句生活」「日本俳句」から16年)         16年)       食糧事情悪化       13名)一斉俳句弾圧事件13名)一斉俳句弾圧事件13名)一斉俳句弾圧事件13名)一斉俳句弾圧事件13名)一斉俳句弾圧事件1942年         (昭和古俳諧の研究に没頭 「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」17年)       人勝つまでは」 「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」1944年 その成果を『尺春庵集』サイバン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が19年) 東海地方に大地震19年) 東海地方に大地震1945年 岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 表存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次1945年	(昭和		優良多子家庭の表彰	句」弾圧事件
( 昭 和 応召。戦病で召集解除 1942 年 1942 年 渡辺白泉・三橋敏雄らと 東京初空襲 ( 昭 和 古俳諧の研究に没頭 「結婚十訓」、「欲しがりませ ん勝つまでは」       聖戦俳句         17年)       人勝つまでは」         1944 年 その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅 ( 昭 和 にまとめる B29 による東京爆撃 相次で 19年)       相次で 現存作句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	15年)			思想統制激化
16年)     食糧事情悪化     13名) 一斉俳句弾圧事件       1942年     渡辺白泉・三橋敏雄らと     東京初空襲     聖戦俳句       (昭和 古俳諧の研究に没頭     「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」       17年)     ん勝つまでは」       1944年     その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 相次ぐ 事海地方に大地震       (昭和 にまとめる     B29による東京爆撃 相次ぐ 東海地方に大地震       1945年     岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	1941 年	『現代名俳句集』刊。	日本軍がハワイ真珠湾を攻	四誌(「広場」「土上」「俳
1942 年       渡辺白泉・三橋敏雄らと       東京初空襲       聖戦俳句         (昭和 古俳諧の研究に没頭       「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」         1944 年       その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 旧まとめる B29 による東京爆撃 相次ぐ 東海地方に大地震         19年)       東海地方に大地震         1945 年       岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 現存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	(昭和	応召。戦病で召集解除	撃、太平洋戦争勃発	句生活」「日本俳句」から
(昭和 古俳諧の研究に没頭       「結婚十訓」、「欲しがりません勝つまでは」         17年)       ん勝つまでは」         1944年       その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 旧まとめる B29による東京爆撃 相次ぐ 東海地方に大地震         19年)       東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	16年)		食糧事情悪化	13 名)一斉俳句弾圧事件
17年)       ん勝つまでは」         1944年       その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅 俳句雑誌の統廃合が 相次ぐ 相次ぐ 理海地方に大地震         19年)       東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。 米軍の日本への爆撃激化 残存俳句雑誌もほぼ休刊 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	1942 年	渡辺白泉・三橋敏雄らと	東京初空襲	聖戦俳句
1944年       その成果を『尺春庵集』 サイパン島守備隊全滅       俳句雑誌の統廃合が         (昭和 にまとめる       B29 による東京爆撃       相次ぐ         19年)       東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。       米軍の日本への爆撃激化       残存俳句雑誌もほぼ休刊         (昭和 その後美作に33年間在 東京大空襲       戦争終結後、復刊が相次	(昭和	古俳諧の研究に没頭	「結婚十訓」、「欲しがりませ	
(昭和 にまとめる       B29 による東京爆撃       相次ぐ         19年)       東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。       米軍の日本への爆撃激化       残存俳句雑誌もほぼ休刊         (昭和 その後美作に33年間在 東京大空襲       戦争終結後、復刊が相次	17年)		ん勝つまでは」	
19年)       東海地方に大地震         1945年       岡山県に疎開。       米軍の日本への爆撃激化       残存俳句雑誌もほぼ休刊         (昭和 その後美作に33年間在 東京大空襲       戦争終結後、復刊が相次	1944 年	その成果を『尺春庵集』	サイパン島守備隊全滅	俳句雑誌の統廃合が
1945 年       岡山県に疎開。       米軍の日本への爆撃激化       残存俳句雑誌もほぼ休刊         ( 昭 和 その後美作に 33 年間在 東京大空襲       戦争終結後、復刊が相次	(昭和	にまとめる	B29 による東京爆撃	相次ぐ
(昭和 その後美作に33年間在 東京大空襲 戦争終結後、復刊が相次	19年)		東海地方に大地震	
	1945 年	岡山県に疎開。	米軍の日本への爆撃激化	残存俳句雑誌もほぼ休刊
20 年) 住 「	(昭和	その後美作に 33 年間在	東京大空襲	戦争終結後、復刊が相次
40 十/	20年)	住	原爆投下。玉音放送、戦争終結	<i>\('</i>

1946年~1953年 天皇人間宣言。日本国憲法施行

俳壇の戦犯追及問題、新俳句人連盟が西東三鬼の動議により分裂(新興俳句系が一斉に脱退) 現代俳句協会設立。「天狼」の根源俳句議論。「鶏頭論争」(子規)

新俳壇の形成・「戦後派」台頭・(草田男『銀河依然』跋文を契機とし)「社会性俳句」の勃興

1954 年	『夕刊岡山』俳句欄選者	福龍丸ビキニ水爆被災事件	虚子が文化勲章受章
(昭和	を担当	自衛隊発足	社会性議論が盛んに
29年)		街頭テレビ普及	
1956 年	美作町婦人会俳句誌『女	米国がビキニで初の水爆投下	金子兜太の「造形俳句論」
(昭和	像』編集	実験	
31年)		経済白書「もはや戦後ではな	
		\[ \epsilon_1 \]	
1957年	『花実』参加。	ソ連、スプートニク 1 号打ち	久保田万太郎、文化勲章
(昭和	『句壺抄』刊行	上げ	受章。
32年)		ポリオワクチン開発	「造形俳句論」の議論が
			盛ん
1958年	『俳句評論』参加	テレビ受信契約数 100 万突破	関西の前衛俳句を中心に
(昭和		特急こだま号運転開始	議論が盛ん
33年)		東京タワー完成	
1959 年	通訳を務めるうち、	伊勢湾台風	前衛俳句、論・作ともに盛
(昭和	聖書に親しみ受洗	日本、国連理事国となる	h
34年)			虚子没

1960~1662 年 前衛派と伝統派の対立が鮮明となる。有季定型派は現代俳句協会を離脱、俳人協会設立

女性俳句懇話会結成 (殿村菟絲子・加藤知世子・細見綾子ら)。国立国会図書館オープン東京都の人口 1000 万人超え。

1963年	『瓶』創刊。『八幡船』	輸入自由化	「俳句評論」組と「海程」
	参加。牧師となる	ケネディ米大統領暗殺	組の対立顕著
1966 年	『阿部青鞋集』刊行	航空事故多発	三橋敏雄『まぼろしの
		衆議院「黒い霧」解散	鱶』、蛇笏『椿花集』、草田
			男『美田』など刊行
1968 年	『火門集』刊行	三億円事件	波郷『酒中花』、河原琵琶
	『樹皮』刊行	川端康成、ノーベル文学賞受	男『烏宙論』など刊行
		賞	
		文化庁設置	
1969 年	永田耕衣『真風』編集発	アポロ 11 号、初の月面着陸	兜太の評論「社会性の行
	行	東大安田講堂の攻防戦放送	方」をめぐり、論争始まる

- 1974年 一行詩型研究誌『対流』参加
- 1977年 句集『続・火門集』刊行
- 1978年 美作から東村山の次女夫婦宅へ転居
- 1979年 句集『霞ヶ浦春秋』刊行
- 1982年 句集『火門私抄』刊行
- 1983年 句集『ひとるたま』刊行。第30回現代俳句協会賞
- 1989年 逝去。享年74歳

## 阿部青鞋の俳句への考えまとめ (『ひとるたま』後記より)

#### どう作りたいか

- ・「全て何でもあるものが、何でもなさそうな顔をしているそのおかしさを、私は私なりのありて いな言葉で言ってみたい」
- 「こっち側の小主観からする、わざとらしいフィクション」は「いずれ思考上の類想類形を競う」
- ・「常に分りのいい言葉で」書く

### 俳壇への気持ち

- ・「作品(もしくは人)と読者の真の関係|=「笑いと愛の関係|
- →俳壇はずっとこうあってほしい

### 俳句とは何か

- ・ 俳句形式 = 「そこに用いられるべき言葉が、他の場には決して置きかえのできない窮極状態に置かれて最も美しく生きるべき場」
- = 「言葉に対する美的審問を、それ自体の中で発しそれ自体のなかで決裁することによって、他と紛れない独自性を明証する言葉の場」

だから、この<u>明証性</u>を敢えて欠くことが〈新しさ〉だとすると、俳句に近い短い表現は全て〈俳句っぽく〉なってしまう。しかし、「俳句は俳句に近い短さの全ての任意な表現とともに俳句である」とは思わない。俳句は詩であるが、俳句以外の詩と無区分状態にあろうとするものではない。固有の形式があり、他とは対立する

- →俳句性=明証性ないし対立性 以外にはない
- ・〈俳句っぽい詩〉が俳句のような形式を持っているとしても、俳句ではないと成り立たないような整合・具体を示せないならば俳句ではない
- ・無季・有季は問わない
- ・定型そのものには特有な価値はない
- ・×「ある精神が十七字になるかならないか」 ○「ある精神を十七字にするかしないか」

- ・×「文学や詩で俳句をつくる」 〇「俳句で文学や詩をつくる」 ◎「文学や詩にならない文学 や詩を創る」
- ・×「俳句の優位性は詩であること」 ◎「俳句の優位性は俳句であること」
- →「私の俳句は散文の行い得ざることをやりたいと念ずるのみである。日々に命の灯を恃み得ぬものが、何うして散文の後塵を拝するの十七字を弄ぶを得んや」(石田波郷『雨覆』後記より)

「俳句は、詩でも歌でもない。況して小説評論の後塵を拝すべきものでは断じてない。見方によってはいくらか偏執的と思はれる、この俳句形式の熱愛なきもの、俳句変革は、単なる破壊に過ぎない、易々たることである。われわれは俳句形式を生かし、これに新しい生命を附与しなければならぬ」(石田波郷による前橋多弦『石垣』序文より)

# 一俳句空間一豈 weekly (2008 年 11 月 16 日) まとめ

- ・三橋敏雄、高柳重信、大岡信、加藤郁乎、折笠美秋、宗田安正、堀井春一郎、永田耕衣、などからは高い評価を得ている
- ・妹尾健太郎(※)が、平成6年(1994)に沖積舎から『俳句の魅力 阿部青鞋選集』を纏め、出版。現在では手に入りにくい。他の句集も絶版。

(※全集の年表作成協力者)

- ・20 歳頃から本人によれば「実家へ戻って成人してから、正岡子規の俳論俳句を見、まねごとに作ったりもしたが、やがて関心は種々他へ移り、映画に凝ってエイゼンシュテイン,プドウフキンに傾到、またレスプリヌーボーを追って詩雑誌を編集」していた
- ・師系が存在しない。
- ・第一句集が『火門集』、第二句集が『続火門集』、第三句集が『ひとるたま』ということになっているが、他にも『壺』、『羽庵集』、『句壺抄』、『霞ヶ浦春秋』などといった句集が存在する。他に選句集として『私版・短詩型文学全書1阿部青鞋集』、『火門私抄』がある。
- ・野田誠は青鞋のことを「俳句、短歌、作詞、作曲、漢文、英語、フランス語、ETC。その幅の広さ、その逞しさ」と評した。

#### あたいかに顔を撫ずればどくろあり

**骸骨のうへを粧ふて花見かな/鬼貫** 

この作者は古俳諧の造詣も深く、その影響が作品に強く感じられる。特に鬼貫の作風を範としているようなところが多分にあるのでは。

手が顔を撫づれば鼻の冷たさよ/虚子

#### かたつむり踏まれしのちは天の如し

我むかし踏みつぶしたる蝸牛かな/鬼貫

# 〈十句選〉以下、ページ数は全集のものである

# 冬の日を胸より外し来て坐る 『武蔵野抄』p.23

純粋に景として読むと、日向(胸に陽があたる位置)から動いて、日陰(胸には陽があたらない位置)に座った、と読める。しかし「外し来て坐る」の簡潔さが、まるで「冬の日」が接着可能なパーツであり、胸(心臓がある。急所)から外されたようにも読める。しかしそうすることで句の中の人物に何か悪影響があるわけでもなく、むしろ「坐る」の締め方は安寧を得ているかのようだ。

### 馬の目にたてがみとどく寒さかな 『句壺抄』p.59

青鞋の句のなかではかなり俳句らしい句。「鬣が垂れて馬の目にかかっている」状態と「寒さ」を並べた構造だが、「とどく」が「寒さ」にやや掛かる。馬だけではなくそれを見ている(馬の目に映っているであろう)人物にも寒さが達しているように。

### 青うめの一度に二つ落ちにけり 『句壺抄』p.67

一つ落ちて二つ落たる椿哉(正岡子規)を思い出す。

## いつ迄も金魚の水をこぼす妻 『句壺抄』p.80

美しく歳をとろうよ。たまになら水こぼしても怒らないから(千種創一『砂丘律』)をなんとなく思い出した。「いつ迄も金魚の水をこぼす」ことに怒るかどうかは不明だが、怒らないほうがよく、怒らないだろうと思う。

## 極楽の音がきこえるかなしさよ 『火門集』p.99

「極楽」の音がきこえたらきっと嬉しかったり安心したりするだろうに、それが「かなしさ」をもたらす。

#### この構造は

皆泣いてやさしきものは地獄かな 『火門集』p.132

死ぬことが最も笑うことだろう 『樹皮』p.180

に共通し、本来予想されるものとは違うものを提示する異化の句。

#### 濃くなりし銀河のことを言ひそびれ 『続・火門集』p.199

銀河も濃くなつた事云ひて別る(井泉水の放哉への送別吟のうちの一句。大正 14 年)のオマージュ? 尾崎放哉はこの一年後に死去するが、その事実を読みに採用するとしたら、「言ひそびれ」ることは必ずしも悪いことではない(世界線の分岐)。

### パンの耳これはどこかの波打ち際 『続・火門集』p.213

二物衝突と見立ての中間みたいな句。なんでもないことが海まで飛ぶのがいい。

# 冷蔵庫にハムあり春は慌ただし 『続・火門集』p.245

ハムってなんだか明るいしめでたい。

### 大花火天を感じてのちこぼれ 『ひとるたま』p.299

名句です。(→モノ主観俳句)

# 堕天使のごとき焚火をかこみけり『ひとるたま』p.316

堕天使のごときものをかこむのは結構怖いことだと思うが、囲めるほど人数がいるなら数の力でいけそう。

# モノ主観俳句(一部)

夏浪がおのれの丈にあきにけり	『句壺抄』p.73
立つ波がわが夏帽をかぶりたき	"
ふることになってからふるボタン雪	『火門集』p.89
感動のけむりをあぐるトースター	p.95
死ぬつもりなどなき冬の蝶がとぶ	p.100
美しくならむと舌が思い居り	"
蓮根は飛んでみたしと思いけり	p.118
虹自身時間はありと思いけり	p.119
赤ん坊薔薇の花には似まいとする	p.125
水はただ拳のようなものが好き	p.130
生きているものがきらいな新聞紙	η
つかれはてたる首簑の新聞紙	p.131
昼花火よごれんとして光るかな	η
おろそかにくらせと空蟬に言はれ	『続・火門集』p.221
白葱とわれとの思ひちがひかな	p.222
おなじ事を二本のレール思はざる	p.317
なんとなく嘘つきながら滝は落ち	p.320

## ・白

一生のしろいかもめが飛んでくる/阿部青鞋『火門集』(1960年刊)

夜の湖ああ白い手に燐寸の火/西東三鬼(1900年~1962年)

しろきあききつねのおめんかぶれるこ/高篤三(1901~1945)

影はただ白い鹹湖の候鳥/富澤赤黄男(1902~1962)

波のりの白き疲れによこたはる/篠原鳳作(1906~1936)

頭の中で白い夏野となつてゐる/高屋窓秋 (1910~1999)

あまりにも石白ければ石を切る/渡辺白泉 (1913~1969)

しろい昼しろい手紙がこつんと来ぬ/藤木清子(生年没年不明。1940年を最後に句の発表を止める)

夕焼の中来て白き掌をひらく/小宮山遠『喪服』(1969年刊)

「白という色彩は新興俳句にとっては象徴的な色彩でした」(一俳句空間一豊 weekly (2008 年 11月1日)より)

1933年新興俳句は全国に伝播(年表参照)

### 掘り下げられなかったこと

- ・怖い句(キャツキャツと鋏と思うものが鳴く 『阿部青鞋集抄』p.84、蟻の穴の中から人の声がする p.85 等)
- ・戦争との距離 (プロレタリア俳句、銃後俳句との関係)
- ・師系がない
- ・川柳のことをどう思っていたか